

## 課題の概要

- 提案構想名 「先端学際プロジェクトによる若手人材の育成」  
○総括責任者名 「飯田 嘉宏」  
○提案機関名 「横浜国立大学」

### 機関の現状

本学では「実践性」、「先進性」、「開放性」、「国際性」の精神のもとに、密度の高い教育と研究を行い、「実践的学術の拠点」構築を目標として改革努力を続けている。

中でも若手人材の育成は改革の基盤と位置づけ、本年4月に実施された大学教員組織の法改正に関しては、テニユア・トラック制に基づき競争的環境の下で自立を促す独自の助教制度（年俸制）を導入した。若手研究者の自立促進のために、独自の海外への派遣制度や研究費支援制度を実施し、教員採用に際しては公募制により、外部機関からの採用などを通して流動性増大に資する取り組みを行っている。また定期的に教員業績評価や、優れた成果のある教員に対する顕彰などを実施している。今後は更なる飛躍のために、これらの取り組みを有機的に組み合わせたシステム構築により本学全体の研究活性化と大学院教育の充実を図る計画である。

### 人材システム改革・若手研究者育成の構想

新たに設置する学際プロジェクト研究センターに戦略的研究領域を設定して、人事協議会による透明性の高い人事システムを構築し、国際公募によって特任助教を採用する。助教は独立した研究者として予算とスペースの配分を受け、教授・准教授と共に取り組む学際プロジェクト研究へ参加して研究を行い、同時に大学院生への指導の機会も与えることによって教育の研鑽を積み、5年以内にテニユア審査を受けて、本学または他機関のテニユア職に就く。この取り組みによって広い視野を持つとともに教育資質も十分に備え、また社会に繋がる独創的研究を遂行できる新しいタイプの若手研究者・教員を育成するシステムのモデル構築を目指す。

本事業を契機として、同時に自主的取り組みでも助教の採用を進め、若手研究者の自立的環境整備のためのテニユア・トラック制度を全学に定着させる。一方、テニユア職の教員には分野ごとの方針に則った方式で、教員業績評価に基づく博士課程後期指導資格再審制を導入する。

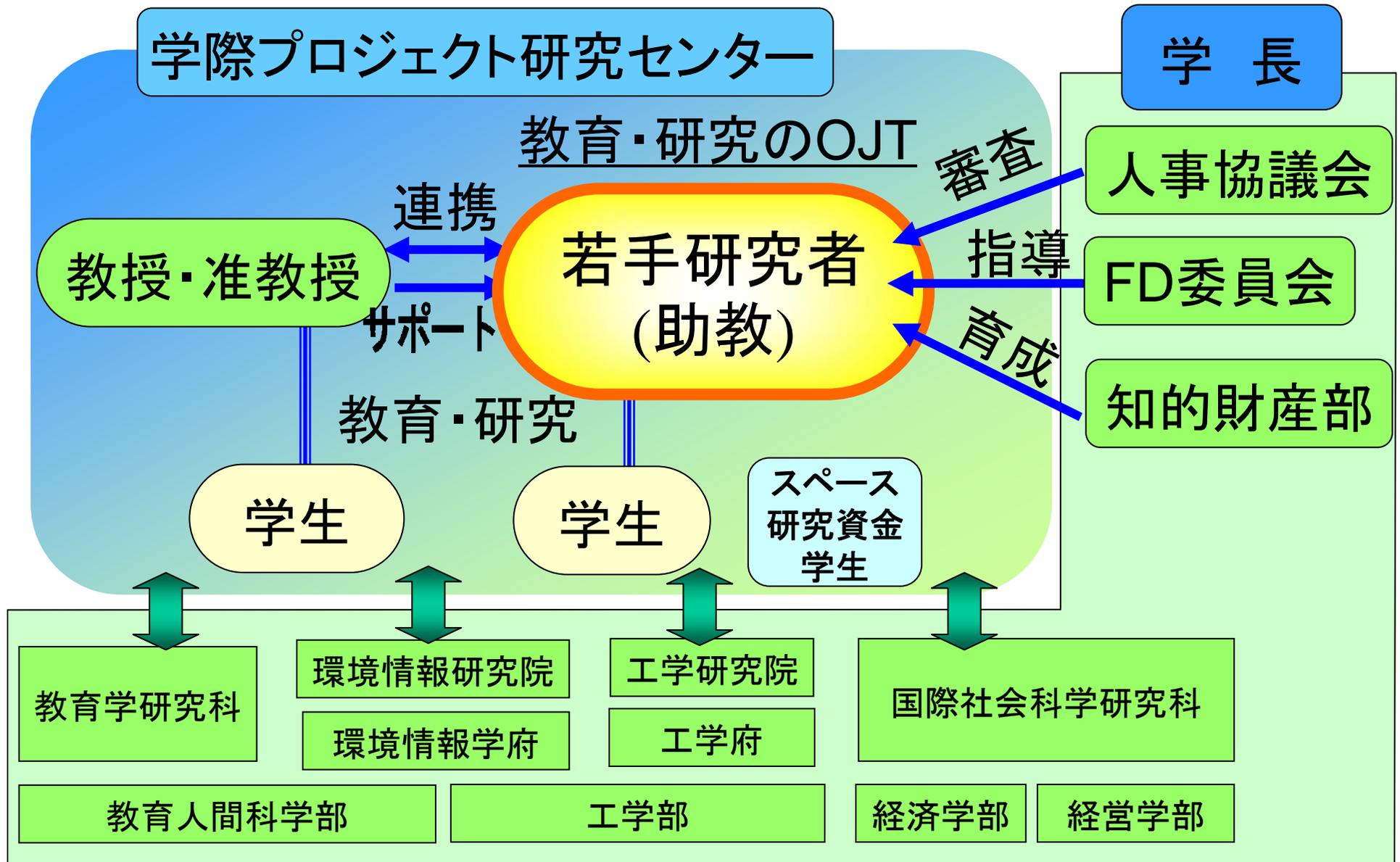
### ミッションステートメントの概要

本事業により、国際公募による若手研究者をテニユア・トラック制の助教として採用する。これと並行して、自主的取り組みとしての助教の採用も同様に推進する。本事業と自主的取り組みを合わせて、5年以内にテニユア・トラック制の助教を定着させる。

本事業採用の助教の育成システムとして、学際プロジェクト研究を通じた自立的な研究環境と、大学院学生指導への積極的関与を担保する制度により、組織的な育成プログラムを構築する。全員が3年目までに博士課程前期学生の指導、5年目までに博士課程後期学生の指導の経験を持つように運用する。この取り組みにより、学際プロジェクト研究参加による研究面での自立と教育面における自立を促し、広い視野と教育資質を十分に備え、世界に通用する研究を遂行できる新しいタイプの若手研究者・教員を育成して、「実践的学術の拠点」形成の一翼を担う。



# 先端学際プロジェクトによる若手人材の育成の実施体制





# 先端学際プロジェクトによる若手人材の育成(実施内容)

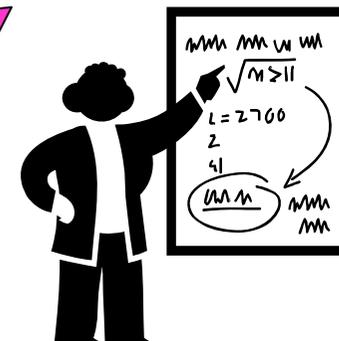
21世紀型新タイプの大学教員を養成  
優れた教育者、社会に繋がる独創的研究者

5年以内にテニユア獲得!!

- 学際プロジェクト研究に参加
- 同一建物で切磋琢磨

審査

1年 2年 3年 4年 5年  
教授・准教授・助教の相互助言  
FD指導/研修



- 広い視野
- 教育資質の向上
- 世界に通用する研究



国際公募

自立した研究者

- 独自の専門課題の研究
- 研究場所
- 研究予算 学生の配属

## ミッションステートメント

- 提案構想名 「先端学際プロジェクトによる若手人材の育成 」
- 総括責任者名 「飯田 嘉宏 」
- 提案機関名 「横浜国立大学 」

### (1) 人材システム改革構想の概要

本事業では、新たに設置する学際プロジェクト研究センターに戦略的研究領域を設定して、人事協議会による透明性の高い人事システムを構築し、国際公募によって特任助教を採用する。助教は独立した研究者として予算とスペースの配分を受け、教授・准教授と共に取り組む学際プロジェクト研究へ参加して研究を行い、同時に大学院生への指導の機会も与えることによって教育の研鑽を積み、5年以内に准教授以上のテニユア審査を受ける。この取り組みによって広い視野を持つとともに教育資質も十分に備え、また社会に繋がる独創的研究を遂行できる新しいタイプの若手研究者・教員を育成するシステムのモデル構築を目指す。また、自主的取り組みでも助教の採用を進め、若手研究者の自立的環境整備のためのテニユア・トラック制度を全学に定着させる。

### (2) 3年目における具体的な目標

振興調整費によって採用する助教と自主的取り組みによって採用する助教を合わせ、3年目までに現在の助手相当職配置数の相当数をテニユア・トラック制としての助教へ移行させる。また、助教が大学院学生の指導に積極的に関与できる制度を確立し、すべての助教が任用から3年目までに博士課程前期学生の指導経験を持てるように運用する。

### (3) 実施期間終了時における具体的な目標

科学技術振興調整費によって採用する助教と自主的取り組みによって採用する助教を合わせて、5年後までにテニユア・トラック制度を全学に定着させる。

また、すべての若手研究者が5年目までに博士課程前期学生および博士課程後期学生の指導経験を持てるように運用する。

### (4) 実施期間終了後の取組

本事業及び自主的取り組みによる若手人材育成システム及び助教制の成果・問題点等を5年後に評価し、必要に応じて制度の整備をした上で、横浜国立大学独自のテニユア・トラック制の助教制度を定着させる。テニユア・トラック制の助教とテニユア職にある教員の定期的な教員業績評価を組み合わせ、教育研究で活気に満ちた大学作りを目指して改革を継続する。

### (5) 期待される波及効果

本事業はテニユア・トラック制の助教制度によって、広い視野と教育資質を十分に備え、世界に通用する研究を遂行できる新しいタイプの若手研究者・教員を育成する取り組みであり、このモデル事業が全国に波及すれば若手研究者の流動性が全国的に高まることが期待される。